

# 町選挙管理委員会委員の選任

議会12月第2回会議で、任期満了に伴う選挙管理委員会委員と補充員の選挙が行われ、4人の委員と4人の補充員が選任されました。任期は、平成24年2月1日から平成28年1月31日までの4年間で、任期初日に選挙管理委員会が開催され、新体制が次のとおり決まりました。

## 選挙管理委員会委員 (敬称略)

委員長 川澄 浩 (牛島)



委員長職務代理者 日吉忠造 (榎本)



委員 遠藤正嘉 (金井島)



委員 加藤信行 (円中)



## 選挙管理委員会補充員 (敬称略)

齊藤壽美子 (中家村)

山口紀一 (下島)

佐藤行信 (下延沢)

露木初恵 (上延沢)

選挙管理委員会は、公正な選挙が行われるよう、公職の選挙を管理し、執行します。

選挙管理委員会 (総務課)

☎ 84-0310

# 子育てのワンポイント (95)

## 友だちと上手に遊ぶヒント (三歳児) 配です。

**A** 友だちが近くにいるの  
にいつも一人になってしま  
う我が子の姿を見ると、切  
ない気持ちになりますね。

三歳のあたりでは、まだま  
だひとり遊びや二〜三人程度  
の少人数遊びが中心です。お  
ままごとの茶わんでご飯を食  
べるふりをしたり、何かのヒ  
ーローになりきったりとイメ  
ージを膨らませて遊ぶことが  
楽しいころになります。

まずお子さんの気持ちにな  
って今何をしたのか、思い  
を受け止めてあげましょう。  
たとえばひとりで満足して  
遊んでいるときは、しばらく  
見守ります。子どもが空想の  
中で遊ぶことができるのは、  
豊かな情緒を育てるためにと  
てもたいせつです。  
ただし、ひとりでいるのに  
飽きてしまったり、友だちの

## 中に入らずに寂しそうな様子 が続く場合にはお母さんの出 番です。一緒に遊んであげま しょう。そのときに「貸して」 「いいよ」の言葉に始まり、 様々な驚きや発見を通して親 子での会話を楽しみましょう。 お母さんにじっくり関わって もらい安心して遊べることも 心の成長へと大きくつながり ます。

たくさんさんの体験を積み重ね、  
遊びに夢中になることを覚え  
ていくと遊びの世界も広がり  
ます。次第に友だちとも一緒  
に楽しく遊べるでしょう。

### 開成町立開成幼稚園

☎ 82-4247

### のびのび子育てルーム

☎ 83-4198

# 地域づくりアドバイザー事業 「開成ブランド」創出のための 講演会・座談会を開催しました

町では今年度、(財)地域活性化センターの宝くじを原資とした「地域づくりアドバイザー事業」を活用し、将来の「開成ブランド創出」のため、地域ブランド戦略の第一人者である宮治勇輔氏をアドバイザーに迎えています。

## ▼プロフィール▲

宮治さんは33歳。藤沢市内の無名の小規模養豚農家だった家業を継ぎ、株式会社みやじ豚を設立し代表取締役に就任。その後わずか2年足らずで独自のパーベキューマーケティンクによりブランド化に成功し、全国的にも有名な豚肉「みやじ豚」として確固たる位置を築いています。

宮治さんは一次産業のイメージを「きつい・きたない・かっこ悪い・くさい・稼げない・結婚できない」の6K産業から「かっこよくて・感動があって・稼げる」の3K産業に変えることを目標に、「特

定非営利活動法人農家のこせがれネットワーク」を立ち上げ、全国の農家とその次世代のためのプラットフォーム作りの取り組みを積極的に行っています。

## ▼経過▲

この事業ではまず、昨年10月5日に宮治さんの経験談や見聞に事前に行った町内農家等のヒアリング調査の結果を織り交ぜた講演会を瀬戸屋敷の土蔵で開催しました。当日は、町内の農家や商工関係者など40人の方が集まり、宮治さんの言葉に熱心に耳傾けていました。参加者からは、「開成町の農家や飲食店と同様に小さな規模でもアイデア次第で大きく伸びることができると学んだ」などの声がありました。

続いて今年1月31日には、参加者の情報共有をより深くするため座談会を開催し、10月の講演会に参加した方々を中心に23人が集まり、町の地

域資源や参加者それぞれが抱える課題について意見交換をしました。農家の団体が飲食店と直接つながることで、流通の中間搾取をなくし少しでも地場の農産物を安定して供給する仕組みづくりの提案があり、町の産業構造の将来像、理想像を垣間見ることができたようです。

今まで農・商・工という産業種別や「郷弁」、「足柄牛の kori kori 焼き」、「米」、「弥一芋」などという生産物のくくりなどで三三五五に存在していた町の産業が、小さい町だからこそそのスケールメリットを活かして垣根を越えてつながり、相互理解を図ることで、町の各産業が飛躍的に発展する―そのきっかけにこの事業がなればと期待しています。



宮治さんの講演会の様子

**お** はよう「先生何してるの?」「○○ちゃん遊んでるの?」…おしゃべりが上手になり、会話を楽しむ子どもたちのかわいい声で、一歳児ひまわり組の保育室はいつもにぎやかです。4月当初はまだ一人遊びがさかんでした。保育者と一緒のままことのケーキを囲んで友だちと「お誕生日ごっこ」をしたり、

園庭では子どもがお店屋さん役、保育者がお客さん役になってみんなで「お屋さんごっこ」をしたりと、友だちとの関わりを大切にしたい遊びを設定してきました。今では保育者の見守る中、子ども同士で「一緒に遊ぼう」と誘い合いい、遊ぶ姿も増えてきました。

**酒** 田保育園では「手伝う・励ます・ありがとう」をテーマとした「思いやり保育」に取り組んでいます。例えば、身の回りのことに対し「できない」という姿も大切に受け止め、「一緒にやってみよう!」「がんばって!」と手伝ったり励ましたりしながら、自分でやる意欲が持てるよう一つ一つ言葉で伝え、丁寧な

援助を心がけてきました。少しずつできることも増え、「自分でできたよ」とうれしそうに話しています。

**か** んばったね、えらいね」とほめると、次回も「自分でできるよ!」と、進んで取り組む姿が見られています。保育者に助けってもらうだけでなく、水道で困っ

生 生 しポート 今 (24)  
子どもたちは  
「ともだちと一緒に」

酒田保育園保育士 古市 佑奈

ている子のかわりに水を出してあげたり、「ここあいてるよ」と席を教えてあげたり、いろいろなおことに気づき、小さいなりに友だちを助けてあげようとしています。保育者が「お手伝いをしてくれてありがとう」「お手伝いしてもらってうれしいね」と双方に声をかけると、お互いにうれし

**ま** た赤ちゃんが泣いていると、すぐに気づいて教えてくれます。どうしたらいいのかわからないと困っているようですが、保育者が玩具を鳴らしてあやしている姿をまね、一生懸命あやしてあげていました。赤ちゃんが笑うと「笑ったよ」とひと安心、「ありがとう」と声をかけると照れ笑いをして得意気です。

**思** いやり保育を通し、保育者だけでなく、友だちや異年齢児など様々な人と関わりながら、思いやりの気持ちを育んでいってほしいと思っています。

